

学校法人SBC東京医療大学 第2期中期計画(2026～2032年度)

2026(令和8)年3月策定
学校法人SBC東京医療大学

学校法人SBC東京医療大学は、名称を改めた令和6(2024)年度を機に、令和7(2025)年度を終期とする第1期中期計画を刷新し、設置・運営するSBC東京医療大学における、「保健医療に関する知識と専門の学術を教授研究するとともに、人間の本質を探究することにより、総合的な教養を身につけた高度で資質の高い医療専門職の人材を育成し、もって我が国の保健医療の向上と福祉の増進に寄与する」ための諸活動に取り組んできました。

この度、第1期中期計画における活動を基盤としつつ、事業の質的向上・量的拡大とともに、新たな展開を目指した取組を着実に進めるため、令和8(2026)年度から令和14(2032)年度を計画期間とする第2期中期計画を次のとおり策定し、PDCAサイクルの下、実行していきます。

《 計 画 》

大項目	中項目	項目	内容
1. 理念・目的とポリシー	(1)理念・目的	①社会発展への寄与、社会情勢の反映	深刻な少子化や超高齢社会といった社会情勢の中、本学を取り巻く環境を念頭に置きながら、理念・目的や3つのポリシーの確認と適宜の見直しを行い、諸活動を展開する。
		②中期計画への反映、理念・目的達成への取組	第2期中期計画及び年度事業計画を確実に推進する。年度事業報告及び自己点検・評価並びに大学機関別認証評価の結果を踏まえ、本学の理念・目的等を反映した計画、方策となるよう適宜の見直しを行う。 また、当該計画等を学内外へ公表し本学への理解促進を図ることにより、教育機関としての社会的説明責任を果たしていく。
	(2)3つのポリシー	①理念・目的を反映した3つのポリシー	変動する社会情勢や法令・制度改正、本学を取り巻く環境の変化を踏まえ確認された理念・目的を基に、ディプロマ・ポリシーを起点とした各ポリシーの点検を行い、適宜の見直しを行う。
	(3)学内外への周知	①多様なステークホルダーへの周知と理解促進	入学希望者、保護者、高等学校、就職先である医療機関等をはじめ、地元自治体、地域連携・協力機関、更には社会一般へ、より広く本学の理念・目的、3つのポリシーの周知を図る。また、本学の教育研究活動の主体である全ての教職員へも適時周知し、その徹底を図る。
2. 内部質保証	(1)内部質保証の組織体制	①方針の点検・整備、組織体制の機能性	3つのポリシーを起点とする教育研究活動の質を担保する仕組みである「内部質保証体制」の機能を向上させる。毎年度、その方針や組織体制、関係制度を点検し、整備、充実していく。
	(2)自己点検・評価	①自己点検・評価の実施	毎年度、事業報告及び自己点検・評価により成果と課題を把握し、全学的に改善活動を展開する。特に学修の成果の把握については、改正アセスメント・プランによる評価を全学的に実施し、その可視化を図る。
	(3)IR	①IR機能の整備、IR活動の実施	IR活動を本学運営の基盤と位置づけ、教学面を中心にその機能を整備し、継続的なデータの収集・分析活用・学内共有・管理を行う。
	(4)学生の意見等の把握・分析による改善	①既存アンケート	既存のアンケート調査を適宜見直ししながら、その結果を分析し、学生の学修支援や生活支援に活用する。また、改正アセスメント・プランの指標としたアンケート調査は、学修成果の把握の観点から見直しの上、実施する。 学生への周知徹底や案内方法の工夫などにより、回答率の向上を目指す。
		②新たなアンケート	学修成果の把握・評価のために必要なアンケート調査を新たに設計、実施し、その分析を通じて教育活動の改善を図る。また、意見交換会などにより学生の意見を聴取し、大学運営の参考として活用する。
	(5)学外関係者の意見等の把握・分析による改善	①新たなアンケート等	新たに学外関係者を対象としたアンケート調査等を全学的に設計、実施し、その分析を通じて教育活動の改善を図る。
(6)内部質保証の機能性(PDCA)	①自己点検・評価結果等による改善	毎年度の事業報告及び自己点検・評価により明らかとなった改善点とその対策を、当該年度事業計画へ反映し、活動を展開する。また、大学機関別認証評価の結果を踏まえた改善活動としていく。	
	②学生など学内外関係者の意見による改善	学生をはじめとした学内外のステークホルダーの意見等をアンケート調査などで収集し、事業計画、中期計画などに反映した上で施策を実施し、大学運営の改善を図っていく。	

大項目	中項目	項目	内容	
3. 学生の受入と学生支援	(1)学生の受入	①アドミッションポリシー(AP)	アドミッション・ポリシーと入試制度・内容の整合性を、毎年度、入学初年度における成績不振者数や中退者数等を基に検証し、必要な対応を図る。また、2027年度と2032年度予定の入試制度見直しへと繋げていく。	
		②定員確保	18歳人口が減少し続ける中、社会情勢や本学を取り巻く環境を踏まえながら、独自の特色を打ち出した学生募集活動を展開することにより、中期的に安定した志願者数を維持し、適正な入学者数を確保していく。 (2032年度目標)志願者数:入学定員の2.2倍以上。入学者数/入学定員:105%以下	
		③入学前教育	入学前教育の内容及び方法並びに効果に係る検証方法を確立し、取組の改善を図る。また、本学の教育内容や育成する専門職への適切な理解が得られるよう、受験前における十分な情報提供活動を検討し、実施する。	
	(2)学修・学生生活支援	①全学		学修及び学生生活支援の要であるアドバイザー制度の運用と再検証を通して、支援の質的向上と充実を図る。また、計画的な学修や充実した学生生活への支援や指導を、教職協働により強化する。 特待生制度による授業料減免を継続するとともに、本学独自であるSBCメディカルグループ奨学金を拡充し、利用促進のための周知を継続的に行う。 合理的配慮の申請方法及び配慮の内容について検証し、対策が必要なものについて改善する。 これらの取組を通じて退学者の抑制を図るなど、学生の学業継続を支援していく。
			②a(理学療法学科)	学修・学生生活の支援体制を点検し、その改善・拡充を図る。 履修指導を徹底するとともに、学生指導に係る情報を組織的に共有し、学科全体で対応していく。 アドバイザーによる支援の充実やオフィスアワーの利用促進、正課外での教育支援体制の構築などにより、退学の未然防止を図り、その抑制に努める。
			②b(整復医療・トレーナー学科)	教職協働による学修環境の整備と情報共有を進め、学生指導を強化する。アドバイザー制度の改善や初年次教育の検証に加え、学科全体でのオフィスアワー・学生相談室の利用促進を図ることで、多層的な支援体制を構築する。あわせてポートフォリオやIRを導入し、データに基づく早期退学防止策を推進する。
			②c(看護学科)	学修・学生生活の支援体制を充実強化し、国家試験合格率100%を目指すとともに、学生の満足度を向上させる。 強化した指導体制の下、学生の状況を学科全体で把握し、組織的に対応していく。 アドバイザーによる支援の充実やオフィスアワーの利用促進、保護者との連携などにより、退学の未然防止を図りその抑制に努めるとともに、退学理由を調査分析し、対策を講じていく。
			③学生相談機能	学生相談室の開室日時の拡大や相談方法の充実、保健室との協働体制強化などを検討の上、サービス向上と利用促進を図る。研修への参加や資格取得などにより、専門職と連携した学生支援を行うことができる職員を養成する。
			(3)学修環境の整備	①図書館の機能
	②施設・設備、厚生施設	学生をはじめとした利用者の意見や要望等を踏まえた施設・設備の改修・拡充により、快適で利便性の高い学修環境を整備し、有効活用する。		
	③ICT環境	学修ポートフォリオの運用とそれにあわせた関連システムの導入・改修とともに、デジタル教材の活用、ラーニング・コモンズの整備などにより、ICTを活用した学修支援を強化し、学修成果の可視化や学生の主体的・自律的な学修を深化させる。		

大項目	中項目	項目	内容	
4. 教育課程	(1)教養教育	①基礎教育センター	「医療専門性と教養を統合した実践的医療人の育成」を全体目標とし、広い視野と思考力を備えた人材を育成するため、教養教育の質保証と体系的な科目編成を推進する。また、医療人としての基礎を養うための教養科目の役割を明確化する。	
		(2)専門基礎教育	①基礎教育センター	各科目における履修者の学修到達度を、客観的数値尺度により把握・データ化し、学科と共有することによって、学生ごとに学修支援の充実を図る。また、全学科と協働して、国家試験対策支援を強化する。こうした取組を通じ、学修支援機能を全学的に充実させていく。
	(3)専門教育	①a(理学療法学科)	修業年限内で理学療法士国家資格試験に合格し、卒業する学生の割合向上を目標とした教育活動を強化するとともに、社会のニーズに応える人材育成を推進する。また、保健医療従事者の学び直し・スキルアップ支援の拡大を図っていく。	
		①b(整復医療・トレーナー学科)	医療とスポーツの融合による「実践的統合カリキュラム」の構築と、教学データに基づく教育の質保証により、社会情勢(超高齢社会・健康寿命延伸)に対応できる高度専門職業人を育成する。 課題である国家試験・資格試験の合格率向上と、学修成果の可視化・厳格な成績評価を両立させるため、データに基づくカリキュラムの継続的な最適化を図り、入学から卒業、就職まで首尾一貫した教育課程を確立する。	
		①c(看護学科)	本学の教育方針を踏まえた学科目標を設定し、計画性・順次性のある教育課程を編成する。卒業後を見通したコンピテンシー(行動能力・特性)に基づくアウトカム(成果・目標)の設定と教授方法の改善・充実により、看護実践能力の体系的な養成を行う。また、学修成果の把握・評価を通じた教育・学びの質の改善を図る。	
		②教授方法	授業評価アンケートを継続性に留意しつつ、適宜改善し実施する。回収率を向上させるとともに、結果は適切に分析し学内共有の上、教育・学修の質向上のため活用する。また、学修者視点からカリキュラム・ツリー、マップ、シラバスを点検し、改善するとともに、学修時間確保のための取組を強化する。	
		③学修成果の把握・評価	教育の質保証を図るため、組織的・継続的・効果的に学修の成果を把握・評価し、その結果を教育活動へ反映する。 「学修成果の評価基準(2019年度制定)」の改正を進め、「アセスメント・プラン」として確立し、全学統一的な方法により実施するとともに、学修ポートフォリオを導入し活用する。	
	(4)キャリア教育・支援	①(全学)キャリア支援	就職率100%を目指して、学生のキャリア形成へ向けた取組を拡充するとともに、学科との適切な役割分担の下、全学的な支援機能・体制を整備する。	
		②a(理学療法学科)	修業年限内で理学療法士国家資格試験に合格し、卒業する学生の割合向上を目標とした教育活動を強化する。職業への理解を低学年から深め、主体的にキャリアプランを考えることを促進するとともに、専門的なマナー教育を推進する。また、学科の特色を活かし進路選択肢の拡大を図る。	
		②b(整復医療・トレーナー学科)	就職率100%の達成・維持に向けた段階的かつ専門的なキャリア支援体制を構築する。学生個々の適性と希望進路(整形外科、接骨院、AT、コーチ、介護、就職等)とのミスマッチを防ぎ、確実な就職へと導くため、戦略的支援を展開・強化する。	
		②c(看護学科)	就職率100%を目標に、全学年においてキャリア形成や実践的な就職活動への支援を強化する。また、通年での情報提供、相談・助言などの取組を徹底する。	
	(5)資格取得・国家試験対策	①資格取得・国家試験対策	a.(理学療法学科) ・理学療法士	理学療法士国家試験合格率100%、修業年限内での合格率85%を目標として、1年次から学修到達度試験による総合評価を行うなど、早期から国家試験への意識づけと対策を行う。

大項目	中項目	項目	内容
		b(整復医療・トレーナー学科) ・柔道整復師	柔道整復師国家試験の受験率向上と合格率100%を目標として、学生個々の到達度に応じた個別最適化された学修(アダプティブ・ラーニング)へと支援の転換など、入学時から国家試験直前までの一貫した学修支援システムを構築し、学生の学修意欲の維持向上と学力の底上げを図る。
		c(看護学科) ・看護師	看護師国家試験合格率100%を目標として、1年次からの学修の基盤形成、1~3年次での弱点科目の明確化と個別指導の強化、4年次の集中対策などに取り組み、毎年度の実績を検証しながら改善を図る。
		②選択資格	
		a(理学療法学科) ・AT	アスレティックトレーナー(AT)の養成を拡充する。2026年度から資格養成校として開設する新たな教育課程において、理学療法学の知識・技能を基盤とした実績ある教育により、幅広い分野で活躍できる専門職を育成する。100%合格を目指し、早期からの学修支援を推進する。
		b(整復医療・トレーナー学科) ・AT ・CSCS ・健康運動指導士 ・保健体育教諭	各種資格等の合格率100%を目指し、合格実績と試験傾向の分析による教育課程の改善や、教職協働による最新情報の収集・共有と試験動向に即応した指導体制確立など、組織的な支援体制を強化する。
		c(看護学科) ・保健師 ・養護教諭	(保健師) 保健師国家試験合格率100%を目標として、試験対策の充実と学修支援の徹底、保健師課程実習と試験対策との運動強化、公衆衛生看護実践力が向上する学修内容への改善などに取り組む。 (養護教諭) 養護実践能力向上のため、養護実習の見直しなど教育課程の強化と教員採用試験に対する指導体制の充実を図る。
d(基礎教育センター・教職課程委員会)	教員採用試験合格率の向上を目指した細やかな指導体制を構築し、教育現場で保健体育の教員、養護教諭として活躍できる専門人材を育成する。		
5. 教育研究実施組織	(1)教育研究組織	①教育研究組織	本学の使命、目的等の適切な検証の下、その達成に資する組織とするため、教育研究組織等の機能・体制について点検・分析を行い、改組・再編・新設・廃止も含めた必要な対策を講じる。
		(2)教職員の人材育成(研修・職能開発)	①FD活動
	(3)研究	②SD活動	教職員の人材育成に係るガイドラインを検討、策定するとともに、SDを組織活動として体系化し、計画的に実施する。事務業務の標準化・効率化を図るため、マニュアルを策定し、学内で共有する。
		①研究活動	持続的研究体制の確立を目指す。「研究を“自分ごと(当事者)”として継続できる教員を増やす！」を重点とした取組を展開し、外部資金の申請・採択件数の漸増と安定化を図る。また、研究成果発信を強化し、教育・地域連携に資する研究活動としての社会的認知を高める。
6. 経営・管理と財務・会計	(1)経営の規律と誠実性	①経営の規律の維持(ガバナンス)	本学の使命・目的を達成するための経営システムを整備、実施することにより、社会から寄せられる期待や要請に対応していく。情報公表を進めるとともに、役割と責任の明確化、コンプライアンス遵守、リスク管理など内部統制システムを機能させ、適正な業務の執行と改善を図る。
		②環境保全への配慮	照明のLED化や省エネ機器等の導入、地域における環境保全活動の実施などにより、環境保全へ配慮した経営を更に進める。
		③人権への配慮、ダイバーシティ	人権を尊重した経営を行うとともに、ダイバーシティを推進する。研修の充実強化、働き方改革、ダイバーシティ&インクルージョンの点検・改善などを実施する。

大項目	中項目	項目	内容	
	(2)適正な管理運営	①理事会	私立学校法及び寄付行為に基づき適正に理事会を運営する。学内の内部統制システムと健全な牽制機能の下、本学の使命・目的を達成すべく意思決定機関としての機能性と実行性を高める。	
		②評議員会	私立学校法及び寄付行為に基づき適正に評議員会を運営する。本学の使命・目的を達成すべく諮問・応答だけでなく、意見具申や監督を担う機関としての機能性と実行性を高める。	
		③監事	私立学校法並びに寄付行為及び監事監査規程に基づき適正に監事が機能する。内部統制システムの下、会計監査人と連携した効率的・効果的な監査を実施する。	
		④会計監査人	私立学校法及び寄付行為に基づき適正に会計監査人が機能する。内部統制システムの下、監事と連携した効率的・効果的な会計監査を実施する。	
		⑤リスク管理	2025(令和7)年3月に制定した「内部統制システム整備の基本方針」に明示した「リスク管理に関する体制」を整備し、リスクマネジメント及び危機管理への対応を図る。	
		⑥安全への配慮	防災意識の向上と災害時の対応力を高めるため、継続して防災訓練を実施する。施設設備、機器類については、定期的保守点検に加え、老朽化対策として計画的な更新を進め、安全性を確保する。	
	(3)財務と会計	①財務基盤と収支	収入源の多角化と事業見直し、業務効率化、生産性向上によるコスト削減を計画的に進め、教育・研究・社会貢献など本学の諸活動に不可欠な強固で安定した財務基盤を構築する(事業活動収支差額比率0%の達成、維持)。 ①収容定員の適正管理による授業料収入の維持、補助金その他外部資金による収入増 ②DX化や業務の標準化、人材育成、働き方改革等による組織の生産性向上、経費削減の徹底	
		②会計	関係法令及び学内規程に基づき、計画的・効果的・効率的な予算執行を徹底し、会計処理を適正に行う。	
	7. 地域連携	(1)基本方針	①基本方針	自治体、企業、団体等との協定に基づく連携・相互支援・協働や、主催・共催事業の実施、講座等への講師派遣など地域連携活動を拡充する。また、今後の地域連携のあり方を踏まえた体制や機能の下、諸活動を展開する。
		(2)地域協働・連携	①自治体・団体との包括連携	現連携協定の更新や新規締結により、自治体、企業、団体等との連携活動等を拡充する。連携協定先との定期的な情報共有会等を開催し、本学への意見や要望を把握し、活動に反映する。
			②共同事業の企画・実施(地域課題解決)、研究成果の社会還元プログラム	地域の課題解決や本学への理解促進のため、保健・医療・福祉やスポーツ、防災などをテーマとした事業を充実させ継続的に展開する。
		(3)次世代育成	①小中高校への出前授業	小学校、中学校、高等学校を対象に、主に保健体育・養護・医療をテーマとした出前授業や校内イベント等を実施する。
②進路・キャリア教育			地域への就職も促進する取組を行い、地元就職率等の向上を図る。	
③学生ボランティアの参加促進			学生によるボランティア活動を促進するため、支援策等を検討し、実施する。	
(4)市民啓発・公開講座		①大学行事の活用(学園祭・地域交流イベント)	学園祭において、地域団体の出展や、本学の特色を活かした公開講演、健康づくり・スポーツ体験教室等を実施し、地域連携の場を創出する。	
		②公開講座シリーズ化	体系的な学びによる知識・技能の深化を可能とするシリーズ化された公開講座を計画し、実施する。	